

哲学カフェ@しぞ〜か
第4回 「よく生きるとはどういうことか」
実施報告書

2014.3.5

1. 日時：2014年2月22日（土） 14:00～17:00
2. 会場：B-nest 静岡市産学交流センター第1会議室（葵区御幸町3-21 ペガサート7階）
3. 参加者数：33名（一般参加者25名，世話人8名）

4. 概要

今回は「よく生きるとはどういうことか」をテーマに開催した。はじめに、世話人の松尾和満（静岡大学大学院生）より哲学カフェ@しぞ〜かの創設趣意と討議の進め方についての説明がなされた。次に、世話人共同代表の堂園俊彦（静岡大学人文社会科学部）よりテーマについての解題がなされた。その後、参加者は2つのグループに分かれ、適宜コーヒーなどの飲み物を楽しみながら、それぞれテーマをめぐっての討議に参加した。途中休憩の前に、竹之内裕文（世話人共同代表，静岡大学農学部）からミニレクチャーを兼ねた中間ファシリテートがあった。なお、グループごとのファシリテーターは松尾と竹之内と堂園が、グラフィアー（ホワイトボードへの記録）は國弘彩と海野祐助が務めた。

5. 討議で交わされた意見（一部を紹介）

- ・ 近所のおじいちゃんとおばあちゃんは、私よりも「よく生きている」と思う。政治経済には関心が無いが、野菜作りを楽しみ、身近な人を大切に、人に尽くすことを喜びとしている。他人と自分を比べない。
- ・ 若い頃と年を取ってからでは視点が変わる。年を取って、欲望を超えて見えてきたものがある。苦しいときは、ありがたい試練とは思わない。人生は経過であり、つながりである。「よくやった！」と納得することが、よく生きること。
- ・ 年を取り、むしろ逆に欲望が出てきた。過去の自分との比較で「よく」生きたい。
- ・ 若い頃に病弱で家族に迷惑をかけた経験から、社会に役立つことが自分にとっての「よく生きる」となった。40歳を過ぎて自分の役割がはっきりしてきた。
- ・ 年代によって「よく生きる」ということが変わってくる。
- ・ 驚く心を持てる、ということが「よく生きる」につながる。驚くことで、自分が知らなかったものを知る。感動を失うと、老いる。
- ・ 高倉健の著書に『あなたに誉められたくて』がある。「あなた」とは母のこと。誰かに評価してもらいたいという思いが「よく生きる」につながることもある。
- ・ 「よく生きたい」と考えたとき、自分の人生を評価するのは自分。その自己肯定感には、自己満足的なものあれば、他者との関係でできるものもある。
- ・ 他人の目が気になる。自分の主観は、他の人の主観を取り入れて作っている。自分の立場を最大限に発揮したときに、「よくやった！」と思う。
- ・ マズローの5段階説のように、段階によってできることは違う。自分の立場がどこにあるかを理解しておくことが必要。
- ・ 先述のおじいちゃん、おばあちゃんにとっての「自分」は、地域のことも含めた自分。彼らの「より良く生きること」が自己実現ならば、そこには他の人の実現も含

まれている。

- ・ 自分の良心を貫いて家族を苦勞させる生き方と、良心を殺して家族を養う生き方があるとき、どちらがいいかは分からない。
- ・ 自分が後悔しないことが「よい生き方」ではないか。

6. 会場の様子 (写真)



写真1 カフェの飲み物



写真2 グループ1の討議



写真3 グループ2の討議



写真4 グラフによる論点の紹介



写真5 グループ1のグラフィック

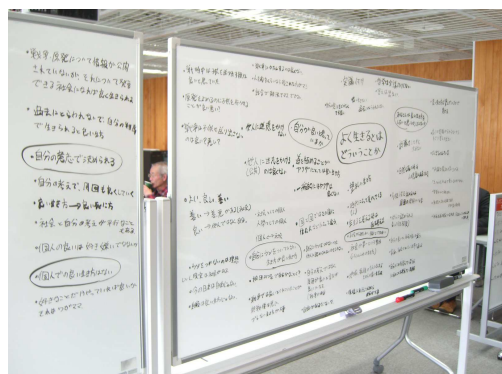


写真6 グループ2のグラフィック

(以上)